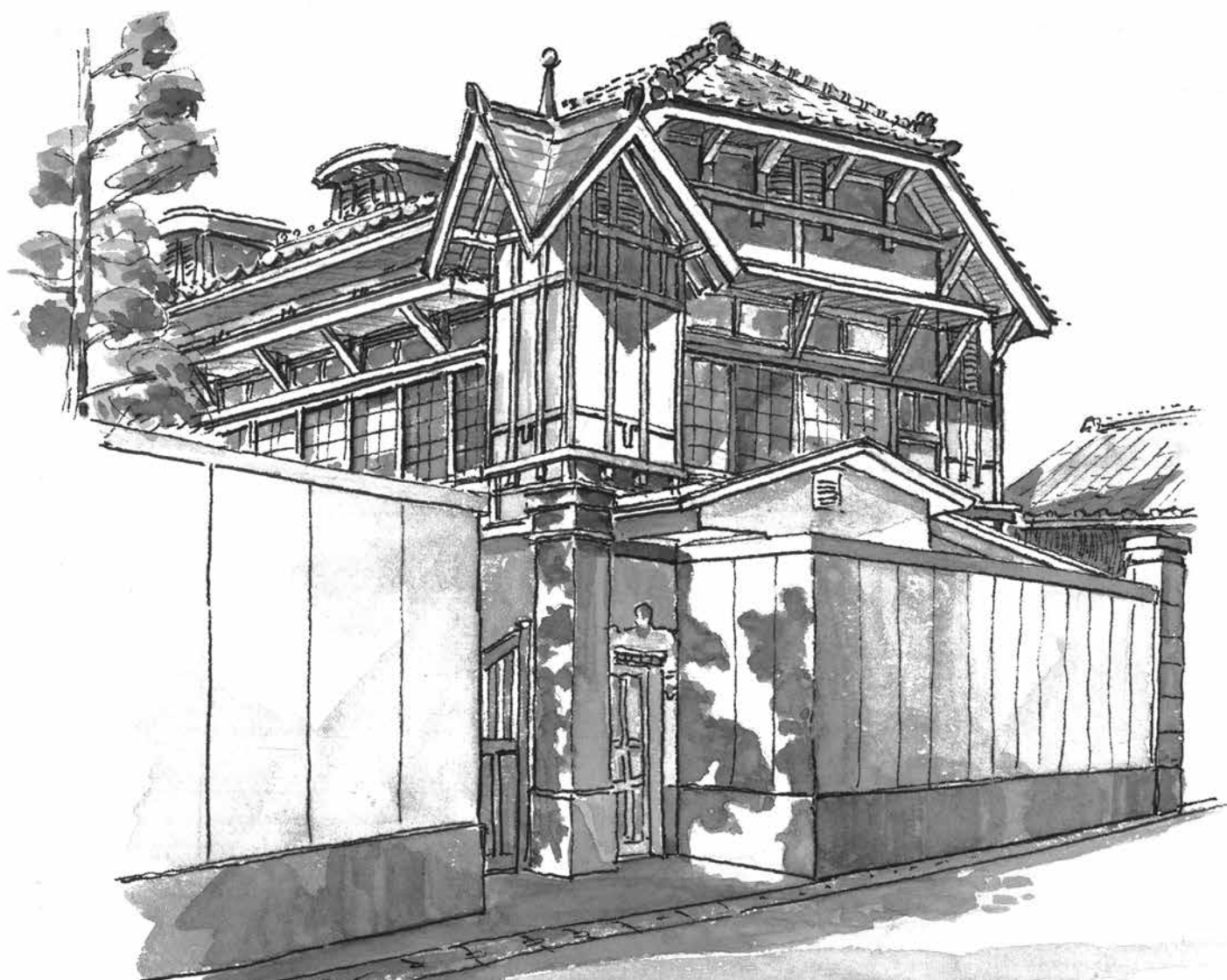


建築士

おおた

春季号

2015 NO 114



公益社団法人 大分県建築士会

CONTENTS

1. 第59回 建築士会全国大会「おおいた大会」開催のご案内	大会実行委員長 幸 勝 美
2. 25年度公益事業の成果	臼 杵 支 部 二 村 貴 玖 珠 支 部 尾 方 秀 則 津 久 見 支 部 山 本 忠 昭 宇 佐 支 部 奥 田 和 彦 日 田 支 部 吉 田 正 浩
9. 建築士会入会の挨拶	佐 賀 関 支 部 川 野 康 雄
10. 建築士連合会全国大会参加報告	日 田 支 部 澤 熊 祐 子 宇 佐 支 部 今 仁 鉄 也
12. パッションからつながるKizuna(宮崎大会)参加報告	玖 珠 支 部 瀧 石 雅 一 豊 後 大 野 支 部 伊 藤 勇 治
15. 建築セミナー参加報告	大 分 支 部 廣 井 孝 信 大 分 支 部 伊 藤 憲 吾
17. インフォメーション(支部便り)	大 分 支 部 三 浦 望 佐 賀 関 支 部 井 上 雅 順
20. マイワーク	宇 佐 支 部 古 市 裕 里 玖 珠 支 部 尾 方 勇 介 高 田 支 部 三 明 保 則
22. マイベストブック	大 分 支 部 松 田 周 作 大 分 支 部 日 高 雄 介 別 府 支 部 小 山 秀 輝 別 府 支 部 中 原 健
24. レクリエーションのすすめ	別 府 支 部 興 田 昌 英
26. 我が街の建築士紹介	臼 杵 支 部 足 立 洋 平 豊 後 大 野 支 部 界 則 康
27. マーボアの旅先日記	会 長 井 上 正 文
28. おおいた建物発掘隊	中 津 支 部 中 尾 忠 廣
29. 事務局だより	



■ 表紙説明 ■

表紙のイラスト

別府市浜脇の風景

別府支部 新山 俊則

建築士会全国大会「おおいた大会」

平成28年10月22日(土)

別府: ビーコンプラザ



第59回 建築士会全国大会「おおいた大会」開催のご案内

大分県建築士会全国大会実行委員会

委員長 幸 勝 美

この度、平成28年10月22日(土)、別府市のビーコンプラザにて『第59回建築士会全国大会「おおいた大会」』を開催することとなりました。全国大会の大分での開催は昭和38年に第8回大会が開催されて以来53年ぶりの開催です。この大会は、県内外より例年3,000名以上の建築士が一堂に会し、日頃の活動の成果を発表し自己研鑽に努めるとともに、建築士の活動を全国に向けてアピールする重要なイベントであります。昨年7月に大会実行準備委員会を立ち上げ3回の委員会を経て、12月には実行委員会へ組織を移行し、各部会が準備を進めているところです。

今回は、「おんせん県おおいた」の温泉をはじめ、各地域の独自の歴史や自然・食文化等の多様性をPRし、お世話をする会員自らも楽しめる大会にしたいと思っております。大会会長の井上会長からも、「楽しんでもらう大会」・「お世話は県内士会全員参加で」・「大分士会会員と他県建築士会会員との交流」の3つのキーワードが示されました。

つきましては、本大会の成功は大分県下各支部会員の皆様方全員のお力添えなくしては実現できないものと思っております。是非とも大会の趣旨をご理解いただき、ともに大会を成功へ導くためにも、何卒、ご協力頂きます様お願い申し上げます。

また、本年の10月30日(金)には石川県金沢市で第58回建築士会全国大会「いしかわ大会」が開催されます。これに大分から100名程度の参加を募り「おおいた大会」への参加PRを行いたいと思っておりますので、合わせてご協力の程お願い申し上げます。

26年度公益事業の成果

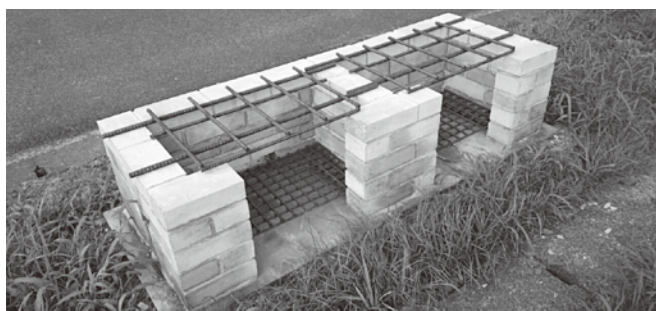
防災かまどベンチによる炊出し体験

白杵支部 二 村 貴

白杵支部では昨年、災害対策の一環として白杵市の避難場所に指定されている「白杵城址（公園）」に防災かまどベンチ2基を製作しました。



防災かまどベンチ（ベンチ）



防災かまどベンチ（かまど）



かまどベンチにて憩いの様子

しかし、ただ設置しただけでは「何の役も立たんやろ！」とのことで…子どもたちと防災かまどベンチを使用した体験学習を行った。

当初、夏休みに入ってすぐの7月下旬に行う予定だったが、昨年は週末毎に台風が接近し、防災訓練どころではない状態が続いた。

結局、二週遅れの8月23日にかまどの火入れ。かまどそのものを見たことの無い子が多く、ただのベンチと思っていたようだ。

体験の内容として

- ・ 焚き付け用の枝拾い
- ・ マッチでの火起こし
- ・ 非常食であるアルファ化米の試食
- ・ 缶切り体験

を実施した。

マッチでの火起こしでは、3本以内で火を起こすよう指示を出したが、どの班も1本目で火を起こすことができた。普段マッチを使用し火を起こすことのない子どもたちなので、3本以内では無理だろうと思っていたので意外な結果であった。



炊出し



アルファ化米にお湯を注ぐ

市の備蓄倉庫にも保存食として備蓄している「アルファ化米」とは、お湯または水を注ぐだけでお米が戻り、食べることのできる非常食で、実際にかま

どで沸かした湯を注ぎ試食をした。

これもイメージした味と違い子どもたちにも好評で、結構おいしく頂けるものだった。

今回の体験で子どもたちが一番苦戦していたのは、「缶切り」であった。

昭和の子どもである私たちには難なくできる缶切りであるが、平成生まれの子どもたちは缶切りすら手にしたことがなく、缶詰もパカンと手で開けるタイプのものしか開けたことがないとのこと。

実際に缶切りを使わせてみたが、力の加減や動かしかたがわからずに、なかなか開けられないようであった。



缶切り

今回、防災かまどベンチに合わせて、子どもたちと実際に火を起こし、炊出しをしたがこのことがすぐに実践できなくても、何かの際に役立てればよいと思う。

最後に、避難場所であり、憩いの場所である「公園」に設置した「防災かまどベンチ」が「かまど」として役立つことの無いよう、いつまでも「ベンチ」であることを切に願います。



試食

26年度公益事業の成果

まちづくり講演会報告

玖珠支部長 尾方 秀 則

玖珠支部では、26年度公益事業として「豊後森機関庫の保存活用とまちづくり講演会」を開催しました。副題として「歴史的建造物を活かしたまちづくり」とし、豊後森機関庫の最善の活用方法をさぐる機会になればと企画しました。

久大本線は、久留米と大分を結ぶ九州横断鉄道として現在も重要な幹線であり、扇形機関庫は豊後森機関区の車庫でした。豊後森機関庫は久大線の全線開通に合わせ昭和9年11月に落成し、久大線の中継拠点として繁栄が始まりました。

終戦直前に米軍機の機銃掃射に遭い、死者3名をだす惨事があり機関庫の外壁には今も弾痕が生々しく残っています。戦後は蒸気機関車25両を擁する大規模な機関区となり益々重要度は増し、町も賑わいを見せていました。昭和45年～46年のディーゼル化に伴い、その後機関庫も昭和の盛衰を見届けて、その役目を終えました。放置状態の機関庫を保存しようという運動が起こったのが平成13年で積極的な住民運動の賜物として玖珠町が土地建物をJRより買い上げる事になりました。その後、近代化産業遺産、登録有形文化財に指定され、現在ミニSLコースも設置され公園化に向け整備されつつあり、機関庫本体についても活用に向け耐震措置を含め検討されているところです。建築士会玖珠支部も調査、図面作成や劣化調査も地域貢献として行っていますので、尚いっそうの地域貢献が出来ればと思います。

歴史的に価値のある機関庫を建築当時の姿を損なう事無く、建築基準法の適応除外規定の運用などによる耐震施策を施し、歴史的建造物の機関庫を活用したまちづくりを住民で考える機会にしたいと考えました。

講師は静岡県在住で全国的に歴史的町並みの保全、活用、まちの個性を活かしたまちづくりに取り組んでいる、塩見寛氏をお迎えしました。

今回の企画は公益事業の趣旨に沿って建築士としての職能を活かしつつ、地域住民と共に地域の活性化を促すよう町内の25団体の方、行政の方や一般住民にも案内しました。

第一部は機関庫の見学、説明会とし講師を含め多くの方の参加がありました。



豊後森機関庫見学会 1



豊後森機関庫見学会 2

第二部は講演会及び住民意見交換会をしました。講演会では塩見氏自身が取り組んだ事例を基に歴史的建造物を活かしたまちづくりのポイントを解り易く講演していただきました。

意見交換では様々な方から機関庫の保存活用の意見を頂きました。様々な意見はありましたが一様に機関庫は本物志向での保存と活用が良いという意見でした。

第三部は講師、会員及び一般の人を含めた懇親会を催し和気藹々と意見交換が出来ました。



講演会

目指す」として後藤治氏の講演とシンポジウムに参加しました。



岡山歴建委員会キックオフ・シンポジウム



住民意見交換会

又岡山県の津山機関庫のある津山支部との交流と津山市の職員の方との顔合わせも出来、今後の交流の足がかりを作る事が出来ました。翌日は津山機関庫を視察しました。津山機関庫はJR西日本が所有し現役で使用されています。現在改修中でしたが改修工事後の姿をまた、見学に行きたいと思えます。



懇親会



津山機関庫視察

翌日は、塩見講師と共に町内の町並み等を視察しました。

今回の事業をより実りあるものにするために、支部役員と玖珠町役場の方もお誘いし、岡山県での「岡山歴建委員会、キックオフ・シンポジウム」に参加しました。基調講演は「歴史的建造物・活用の促進を

26年度公益事業の成果

地域産業遺産『津久見みかん蔵』散策

津久見支部 山本 忠 昭

日時 平成26年9月21日（日）
場所 津久見市 長目地区及び四浦地区

〈活動概要について〉

今回の「津久見みかん蔵」散策は、おおいた地域貢献・町づくり推進委員会の主催で、実行支部として津久見支部が取り組んだ活動です。

地域に残る産業遺産として、津久見ならではの視点から、三和土（たたき）や灰石組みの壁で作られたみかん貯蔵庫群にスポットを当てて、見学・研修を行いました。先人達の技術を勉強しつつ、その存在をクローズアップする事で、再生・保存を含めた目線から見学会を行いました。



県内各地より34名の参加を得て開催され、倉庫群の内外観の見学により、みかんを長期保存する為の定温管理の有効性が確認出来たと思います。行程の中で、三和土の製作実演もあり、津久見での石灰石の有効活用の一端が理解されたと考えています。



見学会後の昼食では、津久見名物「ひゅうが丼」で腹を満たし、その後の「つくみイルカ島」でパ

フォーマンスを楽しみ、地域事情を十分理解していただき、地域貢献というテーマにも添えたものと考えています。

〈事業の効果について〉

みかん倉庫群を見て回り、灰石造り壁の断熱・保温の有効性が認められ、あらためて地域に残る特徴ある建築物を再認識出来た事が大きな成果であったと思っています。みかん栽培の歴史に貢献した建物の存在は、地元津久見市でも過去の物となっています。



今回の行事のように、外部からの視点で興味深く見てもらう事が大いに有効であり、見直す事、掘り起こす事の必要性を感じました。

士会員の少ない津久見支部ですが、この行事を準備し実行する過程を通して、地区の方々の協力を得ながら、上手い役割分担で、みんなで活動出来た事が大きな収穫でした。



又、参加された方の感想でも、おおむね良い評価が得られて一安心でした。

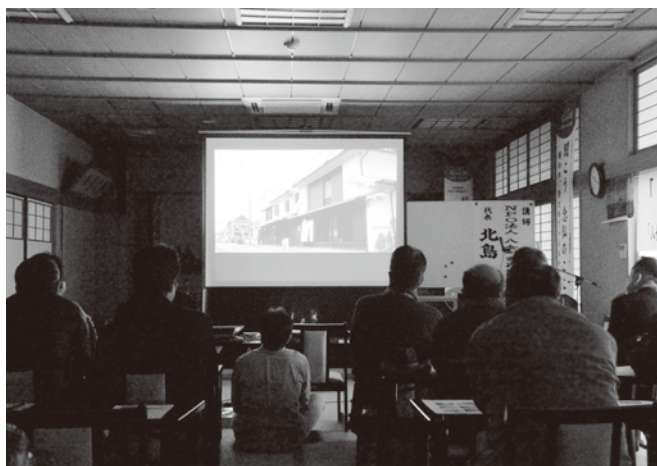
今後とも、貴重な地域産業遺産としての認識を新たに、支部として関わって行こうと考えています。

26年度公益事業の成果

まちや紳士録観賞と四日市別院改修現場見学会

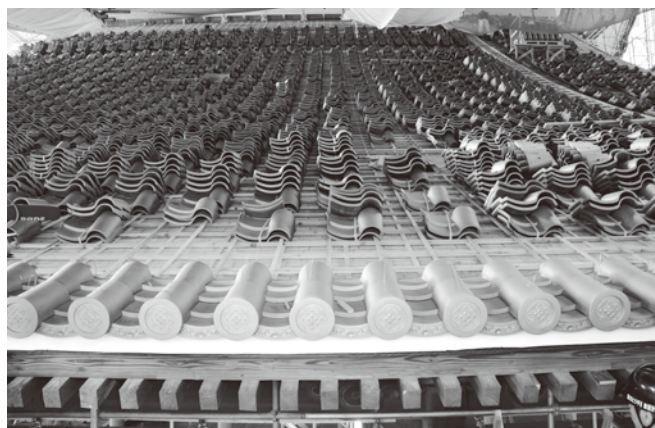
宇佐支部 奥田和彦

宇佐支部では、町の活性化を考えるということで、「八女市福島まちや紳士録」の観賞と講師として来て頂いたNPO法人 八女町家再生応援団 北島代表より貴重な講話を聞くことが出来ました。町家を元あった形のまま再生させる事の大変さと持続的に情熱を持って取組む姿勢と直向さが伝わってきました。又、県外より八女市の再生した町家に移住した方の話を聞きました。再生した町家での住み心地がとても自然で気に入っているということでした。



午後からは東別院改修現場見学。屋根瓦葺きの作業中でした。現地では施工されている松井建設の担当者より基礎補強工事の苦労話、柱や破風の修復の技術などわかりやすく説明してくれました。仮設の足場より上へ登ると大きな屋根面にはたくさんの瓦が仮置きされていました。その光景はとても壮大で

圧倒されてしまいます。仮設足場から間近で見れる屋根の軒先、棟、破風などとても繊細で丁寧な仕事がされていました。今年の夏に一旦工事が終わり再度新たな工事が始まるということでした。また機会があれば現場見学に参加したいと楽しみにしています。



26年度公益事業の成果

第19回住宅セミナーが開催

日田支部 吉田正浩

2月4日（水曜日）快晴、大分大学工学部助教工学博士の黒木正幸先生をお迎えして『ブロック塀耐震診断講習会』を、日田木材協同組合2階会議室にて、午後2時から10分間の休憩を挟んで2時間の講習を頂きました。講習会は建築士会員20名、一般17名の37名の参加が有り、予定時間をオーバーしての内容の濃い講習会となりました。

前半は「ブロック塀の基準と地震被害」で、阪神淡路大震災や東日本大震災、1975年大分県中部地震の写真やデータ、図解を使って、現在のブロック塀の設置状況と震災時の倒壊状況、倒壊する確率、ひとたび震災が起きれば今の塀の30%は倒壊するというデータも有り、住民の意識、倒れたブロックの重量やその破壊力による人命被害、緊急車両の通行障害で救命活動の支障となる事は、特に身近な問題として記憶に残りました。またブロック塀の問題点として、住民は耐震診断の方法を知らない、補強方法が解らない、費用が掛かるので放置している、と言う問題が挙げられました。

後半は日本建築学会の耐震診断指針(2014年発行)を使つての講習で、基礎コンクリート、基礎の根入れ、鉄筋の入り方が悪く倒壊した例、危険なブロック塀の具体的な計測方法、模型を使つての正しい積み方など解りやすい講習となりました。講習会が終わつての質疑では、一般の参加者から「ブロック塀の目地から白い粉が吹いている。大丈夫ですか?」「ブロックは何年持ちますか?」「日田市のブロック塀は大丈夫ですか?」など、つい4時間前に日田市に到着した先生には申し訳ないと思えるような質問も、丁寧にお答えいただきました。鈴木支部長の謝辞で締めましたが、講習が終わつてからも熱心に聞く参加者もいて最後までとても有意義な講習会でした。

その後、木材の町と言う事も有り、木協木材や日田杉の館、現場見学会場（ウッドコンビナート木材加工施設建設現場）へ鈴木支部長がお連れしました。

以上報告致します。



講習会前
待機する黒木先生です。



講習会場の様子です
後方にTOSさんが来ています。
大分建設新聞社さんも来てい
ます。



質問を受ける黒木先生



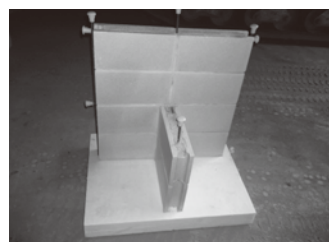
質問する羽野さん(士会員)



余談ですが、当日は2月14日
のバレンタインデーでしたの
で、後藤氏の発案でチョコレ
ートを頂くことができました。
ありがとうございました。



講習会後、熱心に質問する
参加者



ブロック塀の模型です。
発砲スチロールのブロックと
軽量モルタル、鉄筋タテヨコ
@400で本職が作りました。
(嫁入り先募集中です)



日田の夜を楽しむ先生です。

建築士会入会のご挨拶

佐賀関支部 川野 康 雄

プロフィール

昭和24年 大分市生まれ(次男) 長女、次女、長男の3人は満州生れ
昭和30年 金池小学校入学、長浜小学校卒業★遅刻、宿題未提出の常習犯
昭和36年 上野丘中学入学★★フェアプレー無視の先輩だらけのサッカー部に所属
昭和39年 舞鶴高校入学 ☆受験戦争真っ只中、青春を謳歌
昭和42年 大分大学学芸学部入学★サッカー部に所属
昭和48年 教育学部卒業★★退部後軟弱路線まっしぐら
昭和46年 川野電機(株)入社☆家電営業の傍ら、建築・インテリアと同時進行
平成2年 (株)カワノに社名変更 大州浜に新築移転「インテリアのカワノ」として認知
平成12年 日本木造耐震補強事業者協同組合(木耐協)に加盟
☆現在、補助金活用耐震改修工事5年連続県下No.1
平成17年 代表取締役役に就任☆仕事をさぼってのパラグライダーはできなくなる…
平成26年 建築士会佐賀関支部の入会☆渡邊豊基氏との出会いでいつの間にか

意外な側面

- ①見かけに反してアルコールは一滴も飲めない超無作法者
- ②ゴルフ漫画の「風の大地」は大好きだが、プレー経験なし。
- ③過去2度程外国人に間違えられ、英語で返答できない悔しさを味わう。



湯布院上空 600m フライト中

自慢できること

- ①過去6年間、夏場エアコンを入れず、窓全開運転実行(人間慣れるものだ…)
- ②過去6年間、自室で暖房なし生活達成(冬はだるま状態！)
- ③H26大分市・別府市の回転寿司店舗全店制覇 好物はツナ巻(かっぱ寿司) カニカマ(スシロー)

抱負

仕事を通じて地域や社会に貢献したいと思います。特に、大分の住文化の向上に貢献できればと思います。



当社社屋



当社新築社内見学会時の当社女性スタッフ

建築士連合会全国大会参加報告

日田支部 澤 熊 祐 子

10月24・25・26日、第57回建築士会全国大会ふくしま大会に鈴木支部長他6名で参加してきました。

日田を6時に出発し、福岡空港から仙台空港へ。電車と東北新幹線を乗り継いで郡山駅へ。駅に到着して、ハプニング発生。すぐに解決したので笑い話になりましたが、楽しい旅の予感がしました。

駅からバスで会場のビックパレットふくしまへ。楕円型の屋根が特徴的な複合施設で震災の時は、避難所としても使われたそうです。

式典は、いわき市のフラガールによるフラダンスで始まりました。復興のシンボルでもあり、映画『フラガール』観たことがあったのでとても感動しました。

会場では、東日本大震災後の建築士の活動、防災などについての取り組みの発表などがありました。

式典終了後、夕飯はホテルそばのちゃんこ屋さんへ。

元力士の大将の会津弁とおいしい料理とお酒を楽しみました。ちなみに大将の息子さんは、現在【今泉】の四股名で力士としてがんばっているそうです。

次の日は、紅葉のきれいな会津磐梯山を見ながら、レンタカーで会津方面へ。塔のへつりは、紅葉シーズンで、天気も快晴、週末ということで大勢の観光客がいました。



そして江戸時代に宿場町として栄えた大内宿へ。今でも30以上の茅葺屋根の家があり“重要伝統的建造物群保存地区”になっているそうです。少し高い場所から見た景色は、本当にきれいでした。

最終日は、前日会津名物わっぱ飯屋さんに教えてもらった酒屋で地酒を購入からスタート。次に白虎隊のお墓のある飯盛山へ。山の中腹にあるさざえ堂を見学。江戸時代後期に建てられた六角形三層の建物で二重らせん構造の斜路がある不思議な建物でした。

白虎隊のお墓に線香を供えて、記念館を見学しました。

会津若松市から仙台空港につくころには日も沈み、空港周囲に明かりがないのを見て、ここにも津波がきたのだと痛感しました。空港の柱には、津波到達



高さ3.02mが表示されていました。震災から3年半、利用した空港や駅などは、復旧していたと思いますが、基礎だけがのこった住宅地や、何も植えていない畑などを見るとまだまだ復興は、続いていると感じました。

ハプニングもありましたが、この旅で印象深かったのは、出会った地元の方々、会場や駅でお世話してくださった福島建築士会の会員さんの東北弁でした。どこかかわいくて暖かい東北弁。来年の大分県大会では、日田弁で全国の方々をおもてなしできたらいいなと思います。

建築士連合会全国大会参加報告

第57回建築士会全国大会「ふくしま大会」について

宇佐支部 今 仁 鉄 也

『建築士の決断「ならぬことはならぬものです」ふくしまで語ろう「建築・絆・再生」』をテーマに第57回建築士会全国大会「ふくしま大会」が行なわれ、我々も宇佐支部として参加しました。



テーマにある「ならぬことはならぬものです」は、会津藩士たちが子どもの頃に教えられた「什の掟」の最後の一文で、他から言われてするのではなく、自らが制約や強制を受けずに「我々はこうあるべき」との信念のもと、互いに約束し、励まし合うという教えだそうです。

平成23年3月11日マグニチュード9.0の巨大地震と大規模な津波により、東日本全体は、多くの尊い生命や生活が奪われ、地域社会・地域経済が甚大な被害を受けましたが、これからの建築・地域再生・地域らしさを失わない復興について等々、自ら考えさせられるものが多くありました。

会場は「ビッグパレットふくしま」で行われ、大会式典はフラダンスに始まり、記念講演会について



は、「F1そしてルマンへーその挑戦を通じて得られたものは」をテーマに(株)トヨタモーターセールス&マーケティング・モータースポーツオフィス・シニアディレクターの高橋敬三氏による有意義な講演を拝聴し、また、同じブースにおいてはF1カー等の展示も行われていました。

交流セッション、情報発信セッション、企業出展ブース等もあり、また、福島県物産展では「ふくしまのうまいもの大集合!」と、地域のB級グルメや地酒も盛りだくさんでありました。

大交流会では、「楽都こおりやま」ならでの、子供たちのマーチングバンドによる演奏に始まり、福島県の郷土料理をいただきました。

翌日の地域交流見学会(エクスカージョン)については、約30軒の茅葺屋根の民家の街並みで、国の



重要伝統的建造物群保存地域に指定されている「大内宿」や、六角三層の独特な二重らせんスロープで国の重要文化財にも指定されている「さ

ざえ堂」を散策し、会津街道の交通の要衝として栄えた日本の歴史的風景に触れることができました。

また、会津の方言で、急な斜面を意味する「へつり」より命名され国の天然記念物に指定されている「塔のへつり」は、百万年の歳月をかけて、浸食と風化を繰り返した塔上の奇岩がそびえたつ見事な景観でありました。

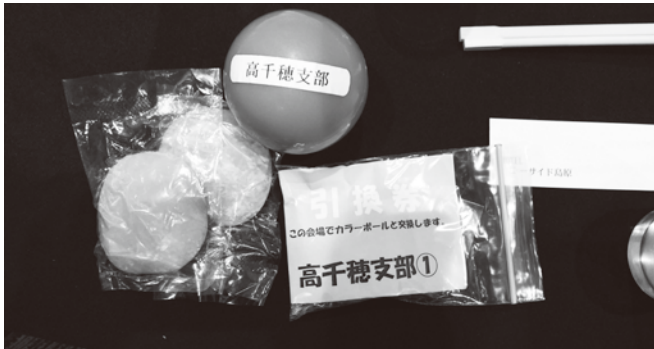


本大会に参加して、建築士として社会における効果や可能性を理解し、認識を高めることができる有意義な機会であったと思いました。

パッションからつながるKizuna宮崎 – 青島フェス – に参加して

— 明珠支部 瀧石 雅 —

『建築士の集い島原』で各県アピールの時宮崎県の方から頂いた餅に付いていた引換券を持参すればもらえるお土産につられて小学二年生になる娘と一緒に参加しました。



青島神社にて人生初となるトゥクトゥクに乗り鬼の洗濯板の予想以上の広大さと歴史、生い茂った木々のすり抜け方に驚かされました。



青島神社には有名な水に溶かす願い符があり、大分支部の竹宮さん、首藤さんとともに秘密の願いを書き込み真剣にお祈りしました。

大会運営費節減のために開式セレモニーは宿泊ホテルの宴会場で行われ堅苦しさもなく、飾らない演出だと感じられました。

大会の内容は以下の通りです。

- 第1分科会 青島神話体験ツアー with フォトラリー
- 第2分科会 加江田溪谷トレジャーハイキング
- 第3分科会 ゴルフ 青島ゴルフ倶楽部
- 第4分科会 天空カフェ・ジール
～オーガニックな衣食住を訪ねて～
- 第5分科会 サーフィン・ボディボード体験
- 第6分科会 パークゴルフ



長崎県2名、佐賀県13名、大分県12名、熊本県12名、鹿児島県21名、沖縄県7名、宮崎県82名の総勢144名の参加がありました。

私は第2分科会の加江田溪谷トレジャーハイキングに参加し木々の緑、目下に広がる鮮やかな川の色、宝探しでは、いい大人が石をひっくり返したり木をゆすったりと我を忘れて大声で見つけた歓喜の声をあげていました。やはり中には1本も見つける事が出来ない方もおられました。

探す宝は1.5cm角に割かれた鉄刀木（たがやさん）で、1人2本まででしたので、自宅に持ち帰り削ってお箸にして使って下さいとの計らいでした。

溪谷で飲む沸かしたての珈琲と鶏肉の料理のおもてなしに意表をつかれました。



最後に宝探しの景品の抽選会でしたが、多くの方から娘にと頂いてしまいました。娘はすっかりご満悦のようでした。

夜の大会は外でBBQでした。運悪く寒空の中での開催となりましたが、伊勢海老を掛けてのジャンケン大会、そのエビが活きたまま捌かれて刺身としてテーブルに並びました。士会員によるバンド演奏、次回開催地となる鹿児島県の挨拶は寒空の中上半身裸で登場しプロレス寸劇を披露してくれ会場を大いに盛り上げていました。



翌朝青島神社付近5kmを1時間かけゆっくりとランニングをし、前日の飲み過ぎたお酒を絞りだす事に成功しました？。普段走る事のない砂浜を走りいい朝日を眺める事が出来ました。



帰りは宮崎名物であるおぐらのチキン南蛮を食べタルタルソースの甘さに驚きました。



冒頭にも書いたお土産は高千穂産の2種類のお酒と都城の方言カルタでした。

我が家では4歳になる娘に文字を覚えさせるためにカルタをしています。都城の言葉は難しくスラスラ読む事に苦戦しています。

例えば

- てげてげでがたれやっど (適当で使いものにならない)
- ちんがらやっど うかぜのあとは (めちゃくちゃだよ 台風の後)
- なっさんにぜんをつこな (無駄にお金を使うな) こんな感じです。どうですか？



このパッションを通して知り合った宮崎県建築士会の方々・別府支部の興田さんと一緒に今年1月に雪の由布岳を登山し交流を深める事ができました。この時都城のカルタの内容の言葉が飛び交い活用形を教えてもらいましたが、使うのは無理でした。



今回は全国大会の福島、建築セミナー、パッションと週替りで続き参加された方は大変だったと思いますが、貴重な経験が出来自分にとっては、全て有意義な時間を過ごせたと思っています。

次回は鹿児島県で本気の婚活と、鹿児島ならではの楽しい企画満載のはずです。

是非参加をされてみてはいかがでしょうか？

平成26年度九州ブロック

「パッションからつながるkizuna宮崎-青島フェス-」レポート

豊後大野支部 伊東 勇治

平成26年11月15日(土)宮崎県青島にて「パッションからつながるkizuna宮崎-青島フェス-」が開催されました。豊後大野支部からは私を含め5名が参加しました。

早朝から行われる分科会に参加するメンバーも居た為、集合時間に間に合うよう車で乗り合わせて早朝に豊後大野市を出発しました。

当日は天候にも恵まれ、野外活動を行うには申し分ない気候でした。早朝開始分科会の参加メンバーと別れたあと会場での受付まで時間があつた為、周辺の観光をしました。

宮崎駅付近に隈研吾さんの設計した「ガーデンテラス宮崎」がある事を知っていた為、一度行ってみたいと思っていました。

特に見学の予約をしたわけではなく、ふらっと立ち寄った程度でしたが施設内を見学させて頂くことが出来ました。印象としては結婚式場のあるホテルといった感じで、ガラス、木、竹、鉄、紙を巧みに使用した空間はとても居心地が良く、つい長居したくなる建築でした。



廊下



チャペル

程よい時間で青島の会場へ向かい、受付を済ませ開会式が行われました。



開会式の様子

開催県の建築士会の方々の日ごろの行いが良かった為か、屋外での活動が主だった今大会にとっては最高の気候でした。(天候が良すぎて海は穏やかで第5分科会のサーフィン・ボディボード体験の参加者にとっては少し物足りなかったかもしれませんが…)

開会式の後、それぞれの分科会に分かれました。私たち第6分科会は最初に青島散策を行いパークゴルフ会場へ向かいました。

青島周辺は「鬼の洗濯岩」と呼ばれる珍しい波状岩が広がっていました。波状の岩の隙間に海水が溜まっており、そこに小海老や小魚が住みついており、小さなコミュニティが形成されているようでした。



青島



鬼の洗濯岩

パークゴルフ会場に到着し、パークゴルフについてのルールとマナーについて指導を受けた後、各チームに分かれホールを廻りました。ゴルフの類は初めてだった為、悪戦苦闘しながらも同じチームのメンバーと楽しくホールを廻りました。分科会終了後、会場へ戻り閉会式となりました。今回の大会では自然とのふれあい、他県、他支部の皆様との交流が出来、次回の大会も是非参加したいと思います。

また、28年の10月には大分で全国大会が開催されますので、力不足ではありますが積極的に協力したいと思います。

建築セミナー参加報告

大支部 廣井孝信

〈第1分科会〉

第1分科会では、ジオパークに認定された豊後大野市のジオサイトでもある石造建造物を視察しました。

視察先到着までのバスの車中で、ジオガイドの方から、豊後大野市の地質の特徴等について、お手製の説明図（紙芝居風）を用いて分かりやすい説明がありました。

最初に到着した目的地は、2基の石造のアーチ橋が同時に見える「轟橋」と「出會橋」です。この2基の石橋は径間（アーチの大きさ）が日本第1位と2位であることにまず驚きましたが、一方は木材搬出のための鉄道軌道橋、他方は人の生活のための人道橋と目的が異なることと近接した場所にあることに興味深さを感じました。



また、これらの橋がまたぐ溪谷の両岸は、阿蘇凝結凝灰岩による柱状節理の岩壁が続いており、溪谷の河原から見上げる石橋の姿は、周辺の岩壁と合わさって、すばらしい景観を構成しており、一箇所ですばらしい“おいしい”体験ができるかなりお得感のある場所でした。



次に向かったのは、明治時代に建設され、沈墮の滝の落差を使った水力発電所の遺構である「沈墮発電所跡」です。周辺に遊歩道が整備されており、発

電所跡の中にも立ち入ることができました。遠くから見ると石造の少し大きな住宅くらいの規模に見えましたが、発電所跡の中に入ってみると、ジブリ映画に出てくる『天空の城』に迷い込んだかのような体験ができ、“こびと”になった感覚を覚えるくらい、大きな建造物でした。

廃墟や遺構が好きな方はもちろんですが、窓すべてがアーチ造に美しく組み立てられており、細部までこだわった造りになっているため、一見の価値がある場所でした。



最後に、発電所跡から遊歩道を通って「沈墮の滝」の滝見台に向かいました。室町時代に雪舟が描いた滝でもあることから、思わず写真を撮りたくなる迫力ある美しい景観でしたが、それ以上に関心を持ったのは、その景観を維持するために、滝自体に人工的な補強がされている事実でした。



共通して感じたことは、人工物でも、周辺と調和した材料、形状であれば、永く残され、古くても美しさを感じられることです。これから造られる建造物についても、周辺との調和に着目することが、重要なことのひとつではないかと考えさせられました。

第2回おおいた建築セミナー第二分科会

木造文化の過去・現在・未来

大分支部 伊藤 憲 吾

平成26年11月8日に豊後大野市で開催された第2回おおいた建築セミナーで木造に関する分科会を行いました。

主催支部は、豊後大野支部と竹田支部の合同による開催でしたが、特別に大分支部の私も運営側に入れていただきました。前回開催が大分支部だったということもあり運営補助の役割もありましたが、ぜひ木造に関する企画を行いたい想いがあり名乗りを上げさせて頂きました。

木造の分科会は、3つの内容を行いました。一つ目は大規模木造建築見学として大分県立三重総合高校を視察、二つ目はプレカット工場見学として大分プレカット共同組合さんの工場を視察、三つ目は座学として大分大学 田中圭先生の講座を行いました。



大分県立三重総合高校は、2006年に建設された大断面集成材による構造です。燃え代設計などの当時の設計方法をお聞きする事ができました。内部空間にも木材が多用されており、あたたかみのある空間でした。子供たちが木に囲まれて育つ意味も感じました。木育という言葉が最近聞かれますが、木造建築そのものが大きな役割を担うと言えます。

大分プレカット共同組合さんの視察は、残念ながら休日なので機械の稼働はしていませんでしたが、大工業の界則康会員（豊後大野支部所属）の丁寧なガイドにより見学者の多くがプレカットの技術をわかりやすく知る事ができました。過去の手刻みの時代から機械加工が一般的な時代となり、それで

も人の手が多く関わっていることを知りました。機械という言葉の中に人間味を感じる事ができました。



大分大学田中圭先生の講座では、国内の木材事情から始まり、これからの木造建築の在り方についてお話をいただきました。特にCLT工法の可能性についてお話をいただきました。木造の高層化が可能になる時代が間もなくやってきます。大きな転換期にいるのだと感じる事ができました。



これから国内で木材消費の需要が高まっていきます。これまでの木造文化を継承し、いまの木造技術を見つめ直し、新しい木造の在り方を創出していく建築士が求められます。林産県である大分から発信していく必要性を大いに感じる場となりました。

ご協力いただいた皆様、お越しいただいた皆様、ありがとうございました。



施設見学会

大分支部 三 浦 望

大分支部では毎年、一級建築士試験対策とあわせて建設業従事者の若い世代の知識と技術の向上を目的として県内の様々な建築施設見学会を実施しております。今年度の製図試験課題が『温浴施設のある道の駅』であり県内には道の駅が23か所あり温浴施設を併設する施設は2か所あります。現代建築の変遷をみるうえで、身近なものになってきた道の駅という一つのテーマをもとに、地域の特性を活かしてどのように建築に取り込んでいくのかという事や施設運営における建築のあり方について学べる見学会としております。

今回は平成26年9月13日(土)に佐伯市にある「道の駅やよい」の施設見学を行いました。参加人数は19名で様々な地域より参加頂きました。開催日が1次試験の合格発表後であり、気持ちを切替える上では良いタイミングであったと思います。見学ルートは、特産販売所の売り場から事務室、ストックヤードへまわり、利用者動線と店側の動線について見学をして、温浴施設に進みました。温浴施設はRC造・S造、地上1階・地下1階、延べ面積1,669.99㎡、浴室(内湯、露天風呂、サウナ、家族湯)・レスト



浴室内見学

ラン・交流室(90帖)・研修室(2室)・休憩室(2室)・マッサージ室と、とても充実した施設であり見学時間があっという間に過ぎました。そして通常はなかなか入れない機械室を見学し温浴施設に必要な設備の解説を施設長より丁寧にして頂く事でより理解を深めることが出来ました。



機械室内見学

今回の施設見学会には、当時の施設建設に携わられた市の担当者の方をお招きする事ができ、設計の難しさや施工時に苦労された事等様々なお話を聞くことができました。更に、意見交換会をすることで今後の実務に役立つ知識と技術の向上につながるものになりました。

今回参加頂いた方の3割が見事に合格するという結果となりました。合格者の方々大変おめでとうございます。今後も様々な世代を巻き込みながらこのような見学会を実施していきたいと考えていますので、ご興味のある方はご参加いただくと幸いです。



意見交換会



佐賀関支部活動報告

佐賀関支部 井上 雅 順

佐賀関支部では、平成25年度の公益事業活動として、無料リフォーム相談事業を実施し、併せて佐賀関の歴史を活かした地域活性化事業として、佐賀関地区NPO法人やボランティアガイドグループ等とともに、まちづくりのコラボレーション等を行ってきました。

その第一弾として「さかのせきまちあるきマップ」を8,000部作成し、全戸に配布した事を前回お伝えしましたが、平成26年度は、その第二弾として、この「まちあるきマップ」に記載された、坂本龍馬や勝海舟が来関した時代の「佐賀関の名所や旧商家等の説明板の設置」を公益事業として取り組み、町内の方はもとより、来街者への歴史的背景の説明を充実させ、さらにリターン来街を誘引し、まちの活性化を目的として取り組むこととなりましたので、今回は途中経過を報告します。



《歴史背景》

坂本龍馬と勝海舟一行は、幕府の命を受け、外国4ヶ国（英仏蘭米）の連合艦隊による長州藩報復を阻止するための交渉を長崎で持つため、神戸より第2長崎丸にて渡航し、1864年2月15日（元治元年）の幕末に、佐賀関に降り立ちました。

その日は徳心寺^{とくおうじ}や商家で^{ししゆく}止宿した後、次の日は徒歩にて鶴崎に向かい、野津原、久住とそれぞれ1泊し、一旦熊本に入りその後長崎に着きました。

帰りもまったく同じ道を辿っており、往きは8日間かかり、帰りはそれより速く7日間で帰っており、4月10日に止宿しています。

《現在の社寺や旧商家》

一行が滞在した際に、宿泊や食事の世話をした社寺や旧商家の一部では、跡地や建造物の一部がいまだに残っており、史実を伝える「立て看板」が地元のボランティアガイドのみなさんの手で設置されています。

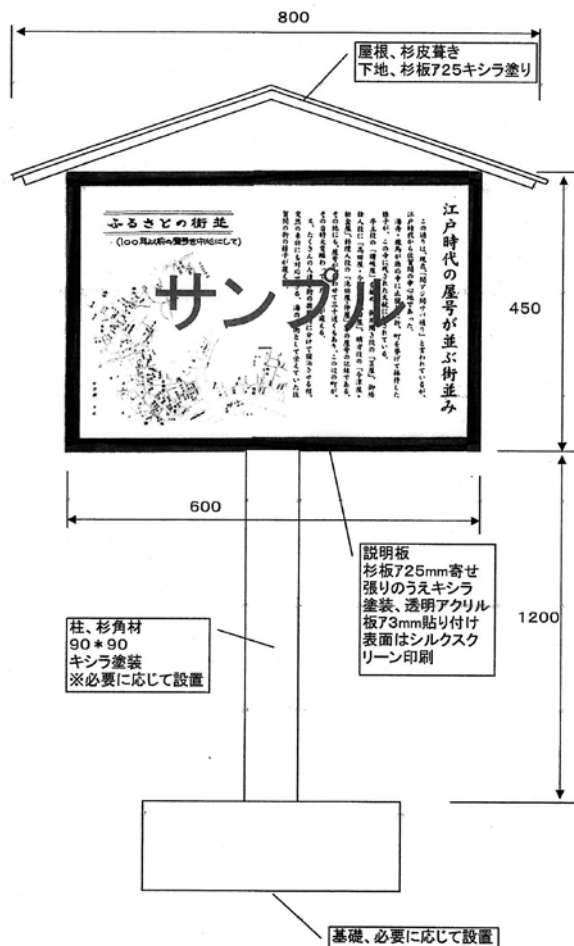


(現在設置されている商家説明看板)

この看板にあつては、素人さんの手作りで、素材も簡素な物を使っている為に老朽化が著しく、説明文もかすれて読めなくなっています。このような立て看板が、まちなかに十八ヶ所以上あり、我々佐賀関支部としても「観光マップによるガイドと旧商家説明看板の内容やデザインの整合性が必要不可欠」と思い、建築士会らしくできる事はないかと考えたところ、「このメンバーで新しい看板を設計・製作し、耐候加工から設置まで全部できるんじゃないか？」という話になり、昨年の秋頃から本格的に会議を重ねているところです。



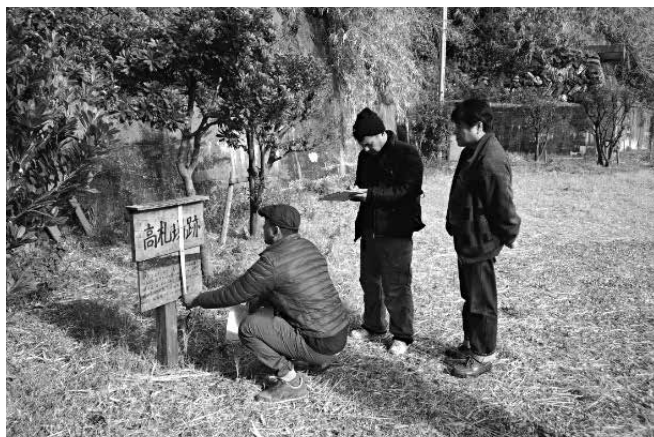
会議では事業の目的、予算、素材やサイズ、ボランティアガイド及び家主や地権者との打ち合わせをどうするか等のいろんな話が出て、その結果この事業名は「まちあるきマップと連携した旧商家等説明板設置事業」に決定しました。素材は木材をベースにアクリル板を使うなどの案が出ました。



次に現況調査です。

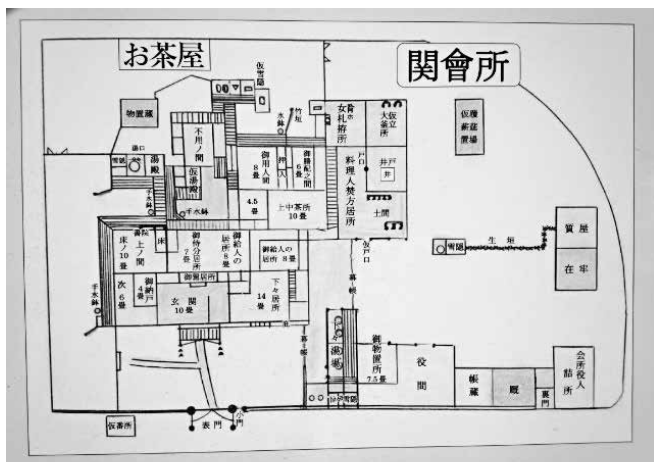
支部メンバー数名で「まちあるきマップ」片手に町内の案内板を設置してある場所を一軒一軒歩いて調査しました。既設の案内板は、コンパネ合板に直書きしている為、風雨にさらされ劣化が進んでいました。なんとか目をこらして内容を読んでも「龍馬達一行の食事の世話をした所」とか「一行のうちの数名を宿泊させた所」など興味深い事を書いてあるのですが、いかんせん目立たないうえに読めなくなっているの、せっかく観光客が散策していても見逃すことがあるだろうと思いました。

当時の屋号がいまだに使われている家もあり、自分が幼少期に「変わった名前の家だな」と思っていたのが旧商家の屋号だったと知ったのは今回の調査のおかげでした。



又、龍馬の話を抜きにしてそれ以外にも佐賀関は江戸時代に旧肥後藩の飛び地であり海の玄関口だった為、警察、軍事、防衛の為に大きな番所や御茶屋等があり、細川藩のお殿様が休憩のため度々この御茶屋に立ち寄られていたとの記録が残っています。

その当時の賑わいは相当なものだったらしく、「高札場」と呼ばれた場所には江戸時代、幕府のお触書が建てられていたそうです。これは人通りが多い所にしか建てられない物らしく、通常七枚ぐらいの所をここでは十一枚も建てられていたとの記録が残っていて、当時いかに人の往来があったか考えると今の過疎化が進んだ町内をみて「観光でも何でもいから建築士会として、地元の人間として何かできる事は無いのか?」と自問自答しながらの調査でした。



とりあえず各案内板の採寸や写真も撮り終わり、あとは細かい所を詰めていっている段階です。この活動を通して少しでも地域に建築士会が貢献できるようになればいいなと思いつつ次の段階の報告はいずれまたの機会に。

以上、佐賀関支部の活動報告でした。

MY WORK

- ★建物名称 S邸
- ★建築場所 福岡県豊前市
- ★設計者 株式会社さとう不動産設計事務所 古市裕里
- ★施工者 tree house株式会社
- ★構造・面積 木造平屋建 124.60㎡
- ★設計趣旨

外壁、内壁に漆喰、床材は天然木を使用しています。

リビングと子供室は梁をあらわしており、家全体が天然素材の柔らかさに包まれています。お施主さんのご希望で中庭を囲むプランとなっています。中庭を取り囲む廊下は室内にありながら、室外のような雰囲気を残しつつ、大きな窓から室内に光を呼び込みます。



- ★建物名称 (有)合谷運輸 新社屋
- ★建築場所 玖珠郡玖珠町岩室
- ★建築主 (有)合谷運輸 合谷章宏
- ★設計者 (有)尾方設計 尾方勇介
- ★施工者 正長建築
- ★構造・面積 木造 57.93㎡
- ★用途 事務所
- ★竣工 平成27年2月
- ★設計趣旨

事務所の老朽化に伴う建て替え工事である。外観は黒と白を基調とし、外壁の一部にアクセントとしてデザイン性に優れ、直射日光の遮蔽・プライバシー確保等の機能性を併せ持つ木格子を採用する事で、落ち着いたシンプルな外観デザインとした。また内部は積極的に木質化し、木の香りとぬくもりを感じる事のできる事務・応接空間とした。



MY WORK

- ★建物名称 たきがみ歯科クリニック
- ★建築場所 宇佐市大字辛島
- ★設計者 (有)三明工務店 一級建築設計事務所
- ★施工者 (有)三明工務店
- ★構造・面積 木造2階建て
- ★竣工 平成27年2月
- ★設計趣旨

シャープでモダンな外観と診察室まで土足で入ることのできるバリアフリーとしている。

西日を抑えるために窓は最小限に設けてあるが、外壁をメリハリのある正面にして閉塞感を極力抑えるようにした。駐車場も広く利用しやすい立地となっています。

診察室は、完全個室タイプと、パーティションタイプの2種類で構成しています。

モニターで治療方針を分かりやすく提案できる設備を整えた歯科医院です。



BOOK My Best Book

マイベストブック

【ARCHITEKTUR DENKEN PETER ZUMTHOR】
建築を考える ペーター・ツムトア 鈴木仁子訳
建築の純度へ 大分支部 松田周作

【まちへのラブレター参加のデザインをめぐる往復書簡】
乾久美子・山崎亮著 文芸出版社
大分支部 日高雄介

大分という地は、世界的に活躍する磯崎新氏はもちろんのこと、アルカイックの首藤廣剛氏、そのお弟子さんの塩塚隆生氏、あるいは、浅井康行氏など、大分固有の「建築の純度」の高い建築家や建築文化が綿々と紡がれている、極めて希有な地として、私の目には映ります。また、学生時代に見学した中津にある楨文彦氏の「風の丘葬祭場」は、今なお、私の最も感動した建築体験です。建築行為においても、日田の原田進氏による左官など、大分固有の建築の可能性を感じます。

大分という地で、建築と向き合う幸運にあって、「建築の純度」の高い、大分固有の建築文化の魅力により惹かれ、「建築の純度」への意識は、自ずとより強いものとなります。

その大分で建築と向き合う自身のベンチマークとして、ペーター・ツムトア氏の『建築を考える』を据える次第です。ペーター・ツムトア氏の『建築を考える』に紡がれた一文一文は、ローカルアーキテクトとして生きていくことを決意する私の心に、ずっと馴染んでくる示唆に富んだ言葉で溢れています。

「あらかじめイメージを描いておいて、それを与えられた課題に即して変えていく、という方法を私たちはとらず、基本的な問いに答える努力からはじめたのである。立地、建物の役割、素材――山、岩、水――についての、当面は具体的イメージを伴わない問いだった。

場所や素材や役割に関する問いに徐々に答えられるようになってきたとき、私たち自身が驚くような構造と空間がじわじわと現れてきた。あらかじめ決められた様式にもとづいた形態をアレンジするよりもずっと奥の深い、根源的な力を秘めた構造や空間になったと思っている。

ペーター・ツムトア氏の言葉は、ここ大分という地のローカルアーキテクトであればこそ、私たちの心に沁み渡り、勇気づけてくれるものと信じております。



今回ご紹介する本は建築家の乾久美子さんとコミュニティデザイナーの山崎亮さんとの共同著者で、大分のすぐ隣の延岡市で延岡駅周辺整備プロジェクトに携わる事がきっかけで始まった往復書簡(文通)の記録です。

建築やまちづくりの専門書というと手に取りづらい感覚をお持ちの方が多いと思います。この本はそういう類の本とは一味違った本です。

「日本の建築家の中堅的な存在」である乾さんと、「建築や公園の設計から一転、作らないデザイナーとして一躍時の人となった」山崎さんのお二人が、建築やランドスケープ、まちづくりに関して、お互いの考えをどんどん吸収されていく様は読んでいても心地良いです。

建築家である乾さんが、「実は公園やランドスケープデザインにも興味がある事」や「作らないデザインを提唱する山崎さんが、本当は建築が大好きな事」などお互いの感情が垣間見えて、徐々に二人の考えが化学反応を起こしていくような感じを受けました。

きっと、延岡のプロジェクトも素敵な結果を生み出すように思います。お二人とも読者に向けてというよりもお互いの意見を思うがままに語りあっているので、等身大の乾さんと山崎さんのご意見を聞けた気がします。自分も共に仕事に関わる人とは遠慮などせずに積極的に意見交換をしていこうという事を考えた本でした。機会があれば往復書簡というカタチで誰かと意見交換をしても良いなと思いました。ラブレターにはならないかも知れませんが(笑)

建築やまちづくりの仕事をしている方、これから携わりたいと考えてる方、そして建築やまちづくりの面白さを知りたい全ての方にオススメできる一冊です。



My Best Book

BOOK ●●●●●● マイベストブック ●●●●●●

【由布院の小さな奇跡】 木谷文弘／新潮新書
別府支部 小山 秀 輝

本書を読むきっかけとなったのは、昨年10月にホルトホール大分で友人が主催した『「心が動く瞬間」高野登 中谷健太郎大分講演会』でした。この講演会の前売りチケットを購入すると本書をいただけるのですが、講演会当日にチケットを受け取ったため、本書を読むことなく予備知識無しで講演会を拝聴してもらいました。中谷健太郎さんをご存知の方も多いと思いますが、私は由布院の亀の井別荘会長ということぐらいしか存じておらず、講演終了後もこの本を読むまでは、正直どのような人なのか掴みきれないでいました。

本書は、「湯布院映画祭」、「ゆふいん音楽祭」などのイベントや、ヨーロッパへの視察など、中谷健太郎さんを含む個性豊かな方々を中心に、現在の由布院がいかにしてつくられてきたのかを綴った本で、大変興味深く読ませていただきました。特に視察先として紹介されるドイツのバーデンヴァイラーという町は、由布院のまちづくりの原点として描かれており、一度は行ってみたいという気持ちにさせられました。

この本を読み終わったのちに、由布院を訪れる機会があり、改めてその町並みや風景を見てみると、今まで気付かなかった、まちづくりや人づくりという一面を感じることができ、由布院がいつそう魅力的なまちに見えました。

【ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業[上]】
別府支部 中 原 健

「殺人に正義はあるか」という疑問を投げかけられた時、なんと返答するのだろうか。私が本書を手にとったのは、某テレビ番組を見たことがきっかけでした。その内容は、ハーバード大学の世界的な政治哲学者マイケル・サンデル教授のおこなう、学生との対話型講義です。この講義の中で学生が積極的に自分の考えを述べている姿がとても印象的であり、また、その討議の題材が私自身すぐに正解を導き出せるものでなかったことで、学生と同じ立場にたち一緒に考えることができました。本書はこの講義の内容を会話形式で記録したものです。

「殺人に正義はあるか」、「命に値段をつけられるのか」といった問いに、どう答えるのでしょうか。私たちは人生の中で選択することを求められる場面に数多く遭遇します。その選択が正しいかどうか判断するためには、自分の考えだけでなく、他の人ならどう考え行動するかを参考にすることもひとつの方法だと思います。

本書は個々のケースについて判断し、その理由及び原理を明確にした後、さらに新しい事例を考えていくといった構成となっており、誰しものが遭遇する可能性がある出来事が題材となっています。その時、自分ならどう判断し、どう行動するかを想像し読んでいただければと思います。少し哲学的な内容になりますが、本書を読むきっかけになればと思います。



レクリエーションのすすめ



別府支部 興田昌英

お仕事ご苦労さまです。土日休まず働いてますか？

いったん凶面を書く手をとめて、山にいきませんか？自然を見るとリラックスできますよ。

私が登山に行くときだれかに話したとき、よく何が楽しいのかと聞かれます。「そこに山があるから」(登山家ジョージ・マロニー)をまねして「そこに女性がいるから」と答えます。

冗談はさておき、今回は登山の何が楽しいのか書いてみたいと思います。



※登山のたのしみ

1. 自然はいろんな顔をもっているということ
自然は季節や天候によって別の顔をもちます。同じ場所でも毎回違う自然をみることができず。あきません。
2. 自然はいろんな色やにおいや音をもっているということ
空、緑、花、紅葉、雲、鳥、動物、雪、風、岩、土、水、沢、空気、感性が刺激されます。
3. 運動してからの温泉と食事が最高
終わってからの温泉とビールと食事がいつもより数倍いいです。
4. 頂上に着くと達成感があるということ
頂上での見下ろす景色は最高です。爽快感があります。
5. 非日常を味わえるということ
パソコンや嫌な上司はいません。地球の広さを感じますよ。

- さらに上級者になると、
6. 山を3日間ほどかけて登って、下界におりてくると、普段どんなにいい生活をしているかわかること

家があり、ビールがあり、布団があり、お風呂があり、コンビニがあり、すし屋があることがとても素晴らしいことだと感じるすることができます。



7. かなり高い山に登って空気が薄くなり、高山病になりかけ、いったんは苦しいが、その苦しみがむしろ気持ちいいと感じること

このレベルまでいくとプロといっても過言ではないでしょう。

次に登山するにはどうすればいいのかを教えます。

1. 情報収集をする
登ってみたい山の2万5千分の1の地図を本屋などで買い、登山ガイドの本を買います。登るための季節はいつがいいのか、何時間かかるのか、登山口までどのようにして行くのか、近くに温泉などはあるのか、おいしいお店はあるかなどを調べます。
2. 計画を立てる
行動予定をたてます。同時に予算がいくらかかるのか、天気はどうかを調べます。「ヤマレコ」、「九州・大分付近の楽しい山ある記」などのホームページを参考にするといいでしょう。
時間に余裕のある計画をたてましょう。

3. 持ち物と装備

登山の持ち物の三種の神器は「リックサック」、「登山靴」、「レインスーツ」です。「登山、チェックリスト」とネットで検索すると、持ち物リストがでできます。

登山において持ち物は非常に重要です。



4. マナー

山では必ずあいさつをしましょう。すれ違う時は登りの人が優先です。また、植物をいたわる気持ちは大切です。

5. 山岳保険と登山届け

山岳保険は「日本山岳会山岳協会」などがあります。加入しておくと言難した場合にヘリコプターの捜索費用などが保険から出ます。

また、登山口に登山届けを記入する場所がありますので、忘れずに記入しましょう。

最初は自分の体力にあった山を選ぶことが重要です。大分県内の山では、牧ノ戸から久住山をめざすコースがおすすめです。



最後に、日本百名山（深田久弥による選定）について話します。日本百名山はそれぞれに特徴があり、すばらしい山ばかりです。

その日本百名山の中で九州にあるのは、九重連山、祖母山、阿蘇山、霧島連山、開門岳、宮之浦岳（屋久島）の6つだけです。

この中に九州で一番高い山がありますが、どこだと思いますか？

答えは宮之浦岳（屋久島）です。

それでは、九州の本島で一番高い山はどこだと思いますか？

答えは九重連山（中岳）です。

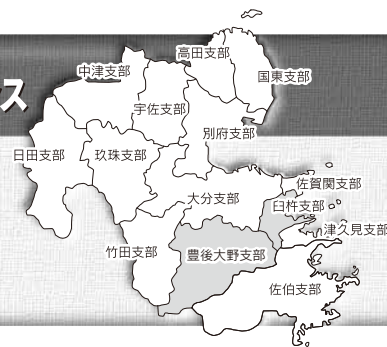
もし九重連山の中岳に登ることがあれば、自分は九州本島で一番高いところにいるんだと実感しましょう！

PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフュエンス

個人が他人に及ぼす影響力

我が街の建築士紹介

(掲載については順不同です)



- ★生年月日 昭和53年11月2日
- ★勤務先 現代建設株式会社
- ★趣味 楽器演奏 子供と遊ぶ
- ★将来の夢、モットー等

現代建設(株)の足立洋平と申します。宜しくお願いします。

私が地元に戻ってきて9年、建築士会臼杵支部に入会して1年が経とうとしています。

戻ったばかりの頃は、昔と変わってしまった町並みに多少違和感を覚えつつ、右往左往としておりましたが、色々な人とふれ合い、また生活していくにつれ、臼杵の良い所を再発見したような気がします。そして、建築士会に入会し、色々な事を勉強させていただき、充実した毎日を送っております。

建築のサイドから、これからの若い世代の町作りに少しでも役に立てる様がんばっていきたいと思っております。



足立 洋平 (臼杵支部)

- ★生年月日 昭和35年10月2日
- ★勤務先 自営業 リフォー^ム夢さかい
設計から大工仕事まで一貫して出来ます。
- ★趣味 模型工作、自然探訪
- ★将来の夢、モットー等

6人の子供の父です。

クラフト系の美術大学に通っている次女と大工仕事でコラボ出来ることを楽しみにしています。

6人目の次男が成人する頃にはすでに65歳になりますので、次男と一緒に仕事をするのは無理かもしれませんが、出来ることなら、6人の子供の住宅を建ててあげることが出来ればと思っています。

*豊後大野市のジオサイト、出会い橋、轟橋の最寄りに居を構えています。先代がその築造に関与しており、思い入れは人一倍です、見学がてら立ち寄ってみてください。



界 則康 (豊後大野支部)

マーボーの旅先日記 その2

国宝建造物めぐりは、果てしない戦い…

会長 井上正文

この10年ほど、全国に点在する【国宝建造物】を見て回ることを続けています。文化庁のデータによると国宝指定の建造物数は、現在271棟だそうです。これを〇〇寺、□□神社といったスポットごとでカウントすると132箇所になります。たとえば法隆寺には19棟の国宝建造物がありますが、これを1箇所とカウントするわけです。この132箇所は、北は岩手県平泉町にある中尊寺金色堂から、南は熊本県人吉市にある青井阿蘇神社まで全国各地に点在しています。このうち現在、訪ねたことのあるスポットは129箇所。計算上の制覇率は約98%ということになります。この訪問した129箇所の中には、色々な思い出が詰っています。急な雨にずぶ濡れになりながら数キロ歩いて訪れたところもあり、夏の炎天下、山の頂上付近まであえぎながら杖を頼りに登りきったところもあります。また、冬のさなか雪道を踏みしめながら訪れたところも。このライフワークともいえる国宝建造物めぐりは単に国宝建物見学という要素に留まらず、そのスポットにたどり着くまでの過程やその土地の風土を楽しむことも大きな要素です。目的地が決まるとわたしの頭は自動的にその地域の旨いもの、旨い酒にスイッチが切り替わります。場合によってはその地域のうまい地酒が飲める居酒屋探しも楽しみのひとつとなります。

制覇率98%という話をお話すると必ずといってよいほど『完全制覇は目の前ですね』の言葉が返ってきます。数字の上では、確かにそうかもしれませんが、完全制覇となると、その話は簡単ではないのです。現在の



若草伽藍五重塔心礎



正倉院

未制覇スポット3つは、東京都内にある『旧赤坂離宮』、鳥取県の『三仏寺投入堂』、それに世界遺産指定に続いて、昨年(平成26年)12月に新たに国宝指定となった群馬県の『旧富岡製糸場』です。旧赤坂離宮の見学は1年に1度の限定で、事前申し込み抽選制。昨年も応募しましたが見事落選。投入堂は急峻な斜面の途中に張り付くように建てられたお堂で、たどり着くのはかなりの体力と覚悟が必要と聞いています。最後の旧富岡製糸場は、訪れること自体の困難さはないようですが、このように毎年のように国宝指定の建造物が増え続けているので、いつかの時点で「瞬間的な」完全制覇はあるかもしれませんが、一生エンドレスの戦いを強いられそうです。

このコラムでは、今後も印象深かったスポットの思い出話を続けていきたいと思っています。写真は、私の国宝建築巡りの遠因ともなった43年前の学生時代に同級生と訪れた巨大な木造建築である『正倉院』と法隆寺境内にある『若草伽藍五重塔心礎』をお見せしましょう。この心礎発見は法隆寺再建説の論拠のひとつとなりました。

おおいだ建物発掘隊

中津市編

会長 中尾 忠 廣



平田邸は、旧耶馬溪鉄道平田駅の近くに位置している。正面から見ると、堂々とした木造3階建ての建物で、そのスケール感に圧倒されます。主玄関は、間口2間の唐破風銅板葺き、大ぶりの懸魚、幕股、舞良戸が重厚であります。

平田家は代々城井村の大庄屋を勤める家柄で、当主の曾祖父は明治期に県議会議長、大正14年には貴族院議員に当選、政治家であると同時に耶馬溪鉄道株式会社社長を務めるなど、政界、実業界で活躍した。この頃、3階部分を増築してこれらの人々との交流の場として使用していました。



3階のザシキとツギノマは三方向壁無しで開放感と見晴らしは最高です。さながら天守閣からの眺めのように、城主にでもなった気分になれます。

部屋を囲む入側風の廊下は部屋に入りきれない時



は、部屋の延長として使えるように畳敷きになっていて、現在障子は無く台風で外側の建具はアルミサッシュになっているのが少し残念です。

この建物とご縁したのは、平成23年から始まった「近代和風建築総合調査」事業でかかわったのが最初でした。当主の奥様に、この建物についていろいろとお話をうかがう中で、自分にとっても他人事とは思えないような存在になっていきました。そして、あらためて継承することの誇りや維持管理の大変さを感じました。

現在当主の一番の課題は、この建物の保存活用です。

これをご縁に今後も建築士会の一員として、この建物の良い活用方法を一緒に考えて行きたいと思うところであります。



事務局だより

★ただ今本部ホームページのリニューアル中!!です。

支部からの情報発信をより簡単に、よりタイムリーに発信できるように改良しています。4月になったらデモンストレーションと説明会をします。

★これから予定されている講習会や催事等です。

研修会・講演会名	日 時	場 所
・魁 リノベ塾 VOL.6 講 師：東京R不動産 馬場正尊氏 ワークヴィジョン 西村 浩氏 参加費：1,000円	平成27年3月29日(日) 14:00～17:00	ホルトホール大会議室
・改正建築基準法講習会 講 師：行政担当者(予定) 受講料：5,000円(予定) テキスト代含む	①平成27年5月13日(水) 定員100名 13:30～16:00 ②平成27年6月10日(水) 定員50名 13:30～16:00	ホルトホール302・303会議室 ホルトホール303会議室
・改正建築士法講習会 講 師：行政担当者(予定) 受講料：5,000円(予定) テキスト代含む	平成27年5月20日(水) 定員200名 13:30～17:00	大分県教育会館

★第2回建築士会「健康・親睦登山」参加者を募集しています。

4月19日(日)に佐伯市の元越山(標高581.5m:大分百名山)の登山レクリエーションを企画しています。

8:30に元越山登山道駐車場に集合、スタートです。往復ゆっくり3時間程度の日豊海岸の美しい景観を眺望しながらのハイキングコースです。

参加希望者は4月10日までに事務局まで。参加費は保険費100円程度を予定。



広報委員

担当常務理事 委員 長 員
〈大分〉 宮 崎 隆 博
〈大分〉 後 藤 悟
〈大分〉 常 廣 竜 也
〈津久見〉 濱 野 一 明
〈日田〉 佐 藤 敏 孝
〈中津〉 佐 藤 博 昭

編集委員

担当常務理事 委員 長 員
〈大分〉 亀 谷 芳 久
〈高田〉 後 藤 憲 二
〈大分〉 足 立 忠 明
〈大分〉 岐 部 和 久
〈大分〉 日 高 雄 介
〈大分〉 都 瑠 淳 一
〈別府〉 小 山 秀 輝
〈国東〉 野 田 忠 博
〈臼杵〉 佐 藤 暢 彦
〈津久見〉 山 本 忠 昭
〈佐伯〉 長 田 孝 治
〈佐伯〉 疋 田 寛 子
〈佐賀関〉 井 上 雅 順
〈豊後大野〉 佐 藤 勤 也
〈竹田〉 玉 田 智 憲
〈玖珠〉 白 地 泰 幸
〈日田〉 伊 藤 照 幸
〈中津〉 佐 藤 博 昭
〈宇佐〉 渡 邊 賢 一

建築士大分 2015.3 No. 114

(非売品)

平成27年3月1日 印刷

平成27年3月1日 発行

編集/発行所

公益社団法人

大分県建築士会

〒870-0045

大分市城崎町1-3-31 富士火災大分ビル3F

TEL 097-532-6607

FAX 097-532-6635

印刷所/いづみ印刷株式会社

大分市高江西1丁目4323番25号 TEL (097) 535-8655

建築士

おおいた

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高田	879-0625	豊後高田市水取 334 番地 2	0978-22-2216
国東	873-0503	国東市国東町安国寺 718	0978-72-2887
別府	874-0907	別府市幸町 8-32 (株)ユウキ内	0977-22-1921
本部・大分	870-0045	大分市城崎町 1-3-31 富士火災大分ビル 3F	097-532-6607
佐賀関	879-2201	大分市佐賀関 4-3341-4	097-575-1120
臼杵	875-0082	臼杵市稲田中尾下 1000-1 (有)みえのブロック内	0972-63-6695
津久見	879-2436	津久見市上宮本町 6-22	0972-82-8806
佐伯	876-0833	佐伯市池船町 19-14	0972-23-6099
豊後大野	879-7131	豊後大野市三重町大字市場 2 区	0974-22-6606
竹田	878-0026	竹田市大字飛田川 1618-6	0974-62-3711
玖珠	879-4632	玖珠郡九重町松木 4415-2 藤原工務店内	0973-76-3999
日田	877-0025	日田市田島 1-7-43-1F 102 (有)藤原設計内	0973-24-6022
中津	871-0024	中津市中央町 1-5-24 中津建築会館内	0979-24-3597
宇佐	879-0453	宇佐市上田 931-3 宇佐建設会館内	0978-33-3395
本部	http://www.oita-shikai.or.jp/		
高田支部	http://www18.ocn.ne.jp/~ksikai/		
国東支部	http://www.beppu-onsen.jp/		
別府支部	http://homepage2.nifty.com/k-shikai-oita/oitasibu/		
大分支部	http://www.bungo.or.jp/usk_shikai/index.html		
佐賀関支部	http://www.bungo.or.jp/t-shikai/		
臼杵支部	http://www.geocities.jp/o_s_kentikusi/		
津久見支部	http://www61.tiki.ne.jp/~kentikusi-ta/index.htm		
佐伯支部	http://homepage3.nifty.com/ken-kusu/		
豊後大野支部	http://www.d-b.ne.jp/ken-hita/index.htm		
竹田支部	http://kentikusi-nakatu.net/		
玖珠支部			
日田支部			
中津支部			
宇佐支部			

会員増強にご協力を！

～会員二人で、一人の入会勧誘を～
目標 3,000 人突破



公益社団法人 大分県建築士会